

★イスラムの根本精神は何だろう？ なぜイスラム過激派は欧米でテロを起こすのだろうか？

イスラムの根本精神は、神の唯一絶対性の確認（被造物神格化の拒否）と、神の前での人間の平等の徹底である。特に貧富の格差（→人と人との間に支配服従の関係を生み出す元凶）に対して非常に敏感である。

イスラム過激派が欧米でテロ行為に及ぶ理由の1つは、欧米諸国が（特にフランスは）イスラムを理解し受け入れようとせず、（特に米英の）資本主義経済（≒あらゆるものを商品化し利益獲得の手段とする）が世界中に貧富の格差を生み出している元凶だと見ているから。そのほかイスラム過激派の反米的態度には、アメリカがイスラエルを支援している点や、アメリカ軍の中東諸国に対する爆撃（→特に病院や学校に対する誤爆）も関係している。その意味では、「アメリカの軍事行動がイスラム過激派を生んでいる」という側面もある。

※イスラム過激派の残虐行為を正当化することはできないが、彼らの行動の背景にある考え方を理解することは必要である。イスラム側から見ると、アメリカを中心とする欧米諸国（+日本）は、社会の調和を乱す許しがたい存在に映るのである。

※イスラム諸国では従来、「日本は昔アメリカと戦争をした正義の国」という評価もある（少なくとも数年前までは、あった＝少し誤解があるけれど）。しかし最近の日本はアメリカと一緒に軍事行動をする場面が増えて、日本に対する印象は変わりつつある。

※イスラムの考え方では、神を敬う心に優劣がある以外は、すべての人間は平等である。それゆえ『クルアーン』でも「捕虜を安易に虐殺すること」は禁じられているし、「自分から他人を傷つけること」も禁じられている。しかし「自分やイスラム共同体が攻撃されたときには勇敢に防衛すること」も推奨されているので（ジハードの一種）、イスラム過激派たちは「欧米諸国に対するテロは防衛戦争として正当化される」と信じているのかも知れない。

※しかしそのようなイスラム過激派の行動が、人々の間に「憎しみの連鎖」・「報復の連鎖」を生んでいるのも事実である。その意味では、人々が憎しみと対立に陥らないような新しい国際秩序を作り出すことが緊急に求められていると言えるだろう。言い換えれば、世界中の多くの人々が貧しさに苦しんでいる現実を直視し、これまでの政治経済のシステムの問題点を明らかにし、すべての人々が貧しさから解放されて豊かで幸福な生活ができるような新しい政治経済のあり方を真剣に模索する必要があるのだ。そうしなければ、テロを完全に根絶することはできない。